

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



国の補助金の名目とその利用状況の齟齬

健康福祉常任委員会の質疑では、市民の困りごとに対応するための取り組みで、地域福祉コーディネーターにその対策を業務委託する予算内容を問いました。

この予算には、国の特定財源として生活困窮者就労準備支援事業等補助金という補助金が使われるものでした。当然、この補助金は生活困窮者の就労を促すものに用途されるべきでしたが、今回の事業にはどの角度からも、その就労を目指したものが見当たらず、その内容を尋ねると、この特定財源名にある、「等」に相当する事業に当たるとのことでした。

東日本大震災の復興事業にも見られたものですが、必須とされる「補助金」が先にあって、その補助金目的とは思えない事業の導入や用途にされている様子をただしたものでした。とはいえ、それを返上させるような視点には立てませんでした。他の事業には、同趣旨の自立支援金が盛り込まれていますが、単に、収入減少の補填延長となる内容でした。(予算 928万2千円)



参考：東日本大震災被災地、福島県内

*この被災地の復興に便乗し各地で建設事業

市民病院のジェネリック医薬品利用

健康福祉常任委員会の質疑で、市民病院のジェネリック医薬品利用状況はどうかを問いました。昨今、ジェネリック医薬品メーカーの大手企業である「日医工」などに、製造に関する不祥事があり、営業処分が適用され、いくつかの製品が品薄とされていることの影響を気にしてのことでした。



町田市民病院の場合、入院患者では80%がジェネリック医薬品をすでに利用している数値がしめされています。薬剤購入に関して、基本指標(ベンチマーク)となる種類と他を比較して選択しているとの説明がされています。

町田市民病院では、その赤字解消(一般会計より補填)を計画的にゼロとする計画が進められているが、薬剤費を減少させる目的でジェネリック医薬品利用の拡充が欠かせないわけであり、その不足が無いかを尋ねました。市民病院では、代替品の検討・確保を務めており、現在のところ不足は生じていないというものでした。

◎所属会派の名称はシンプルに「無所属」とし、3名の議員で構成しています。

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を讀込
して送信



好評インターンシップは、間もなく第50期生がスタート

4回目のコロナワクチン接種について

健康福祉常任委員会の質疑事項では、保健予防費の新型コロナウイルスのワクチン接種状況が明らかにされました。一般には高齢者の接種率が高く、若年者が低いとされてきましたが、その表を見ると、一概には言えず、20歳代の接種より、30歳代の数値の方が低くなっている状況が見られました。高齢者は集団接種を選択し、若年者は個別接種を選択しているという説明でした。自分の経験では、個別接種(一般の医療機関)の接種希望で、スムーズに出来ており、来場者の観察でも同様でした。

接種を促進するには、集団接種(特定会場を指定)と個別接種(一般の医療機関)で使用するワクチンの効率的な相互融通があります。その実施のための予算は別事業となっていますが、製品の融通は可能と言うものでした。4回目の接種では個別接種(一般の医療機関)を主体にした方が利便性を高めるのではないかと考えました。(接種体制確保5億5159万9千円、集団接種4億4673万5千円、2億439万1千円)全額国費。



参考:第1回目の自衛隊の接種会場

インターン体験記⑦上野竜空

今回は乙武ひろたださんの活動を応援するため、八王子に参りました。「東京から国政へ!」という想いを掲げて参院選に立候補を予定されている乙武ひろたださんには今回が初めてお会いする機会となりましたが、立ち止まった方とは真摯にお話され、とても物腰の低い方のように感じられました。



中央大学4年生 上野竜空 (第50期生)

乙武さんは、ご自身の障がいについて書かれた「五体不満足」という書籍で一躍有名になったと理解しています。そのご本人が、経験を活かして「誰もがチャンスを与えられ、誰もが自分の人生を選べる社会にしていきたい。」という想いで次なる舞台に挑戦されようとしています。不透明な現代を生きる、一方で課題解決に取り組むことを止まない私たち若者にとって、何か心動かされるものがあるのではないのでしょうか

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2022年4月末より50期生が研修を開始しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。

◎次期インターンシップの第50期生となりますが、現在、1名参加中、他にも受付中です。